中学校保健体育授業におけるいじめの実態に関する研究

－いじめが発生する要因に着目して－

中村　美穂　（東京学芸大学教職大学院）

１．目的

本研究は、中学校の保健体育授業におけるいじめの実態から、いじめが発生する要因を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

１）対象者：中学校の保健体育授業でいじめを見た経験を有する大学生４名

２）調査方法：半構造化インタビュー

３）分析方法：いじめが発生する要因とみられる語りにコードをつけ、類似するもの同士をカテゴリー化するカテゴリー分析を行った。なお、分析の妥当性を高めるために、内容の分析に関して協議を行い、修正するピア・ディブリーフィングと、対象者に分析結果が妥当なものかを確認するメンバーチェックを実施した。

３．結果と考察

１）保健体育授業でいじめが発生する要因として、被害者や加害者に関する【当事者要因】、周囲の生徒や教師の指導に関する【第三者要因】、保健体育授業の性質に関する【体育独自の要因】の３つが生成された（表 1）

表１　作成されたカテゴリー・概念の一覧

抽出された概念	サブカテゴリー	カテゴリー
対人関係の弱さ	被害者の傾向	当事者要因
身体的な特徴の表出		
スクールカースト下位		
スクールカースト上位	加害者の傾向	
高い攻撃性		
自己中心性		
加害者の結託		
被害者になることへの恐れ	傍観者の存在	第三者要因
被害者への受容的態度の欠如		
傍観的な態度	教師の指導	
不公平な対応		
ルールの工夫		
身体活動	体育独自の要因	
集団種目		
勝敗が伴う競争		
いじめの見えにくさ		

２）【当事者要因】【第三者要因】の関連について、保健体育授業でのいじめは、当事者間だけでなく、それを取り巻く周囲の子ども達や教師の対応によって発生することが示唆された。

３）【当事者要因】【体育独自の要因】の関連について、以下の４点が明らかとなった。

①身体活動を伴う学習で被害者の身体的な特徴が露わになり、それがいじめの発生に関わる。

②集団種目や勝敗を伴う競争によって集団の凝縮性が高まり、複数人でいじめるといった数的優位な状況が生み出される。

③施設の死角により、第三者の目が行き届かない状況を作り出し、当事者間のいじめを促進させる危険性がある。

④保健体育授業の技能差によって子ども達の力関係の差をより大きくし、加害者が優位な立場を利用していじめをする。

４）【当事者要因】と【第三者要因】、【当事者要因】と【体育独自の要因】には密接な関連があり、【第三者要因】と【体育独自の要因】も関係があることは容易に想像がつく。従って、保健体育授業におけるいじめは、３つが複雑に絡み合って発生することが示唆された。

４．結論

保健体育授業でいじめが発生する要因は、【当事者要因】【第三者要因】【体育独自の要因】の３つに整理された。また、いじめは３つの要因が複雑に絡み合って発生することが明らかとなった。そしていじめの抑止には、第三者の存在が大きな鍵を握っていることが明らかとなった。

５．主な参考文献

１）出口博昭・吉村功（1999）体育授業におけるいじめの実態及びいじめの助長・解消に関わる要因の検討．北海道教育大学紀要（自然科学編），50（1），pp. 101-110